**わくわく聖書セミナー　第12回　「終わりのことがら」**

黙示録の背景

64年～67年　ローマ皇帝ネロによる迫害

多くのキリスト者が十字架につけられたり、野獣に投げ与えられたり、焼き殺されたりした。パウロ、ペテロもこのときに殉教した。

95年～96年　皇帝ドミティアヌスによる迫害

　4万人以上のキリスト者が拷問にかけられ殺された。使徒ヨハネがパトモス島に流されたのもこの頃。

黙示録の目的

　・迫害下にあるキリスト者を励ますため。

　・キリストの再臨と究極の勝利、神の国の完成

 再臨：マタイ24章

 新しい天と地：創世記3章で失われた神の国の回復

キリスト教の世界観

　人間の歴史には始まりと終わりがある。

ただ一度の生と死と復活がある。輪廻転生ではない。

最後の審判

　神は公正であり、愛のお方

　神はすべての人が救われることを望んでおられる

　黙示録２２：１７　ことさらに恐れるのではなく、公正で愛の神にゆだねる。

黙示録の解釈

　無理に解釈しない。一つの解釈に固執しない。